

2022（令和4）年度 尚絅学院大学「現職教員のための公開講座」一覧

講座名	講座内容	講師名	開催日時	主な受講対象	定員
(R04-01) 英語教育における小中連携のあり方について	小学校外国語教育が始まり、小中学校の連携・接続が課題と言えます。例えば、「小学校の英語の授業は楽しく、好きだったけど、中学校の英語は楽しくない」「複数形のS、三単現のSは本当に教えなくてもよいのか」「小学校では歌やゲームばかりで、英語をしっかりと教えてほしい」等々の疑問・課題が議論されております。本講座では、理論的及び実践的観点からこういった疑問・課題の理解を深め、小中連携のあり方を検討する。	人文部門特任教授 板垣 信哉	8月10日（水） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料	小学校教員 中学校（英語科）教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	20名
(R04-02) 「公共の扉」のひらきかた—現代の社会理論から「公共」の形成とその課題を考える	本年度より高等学校教科「公民」で科目「公共」が始まりました。「公民」の学習指導要領には「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する」ことが目標として記されています。その中で「公共」は、私たちが「公共の扉」をひらき「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画」し、また同時に「持続可能な社会づくりの主体になる」ことを主たる内容としています。本講座では、これらの内容について現代の社会理論から「批判的」に考察していきます。	人文部門教授 箭内 任	8月12日（金） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料	中学校（社会科）教員 高等学校（公民科）教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	30名
(R04-03) 「社会に開かれた教育課程」と学校・家庭・地域の連携と協働	「社会に開かれた教育課程」には地域ぐるみの様々な事柄が期待されています。実際に「社会に開かれた教育課程」をどのように構想していくか、「子供は未来の創り手」「地域と共にある学校」をキーワードに事例を基に具体的な理解を深めていきます。また、地域学校協働活動と学校運営協議会の意義を確認し、地域連携担当教員を中心として家庭とともに地域社会全体で子どもを育てていくために学校教員が行う視点と教育実践について、グループでの意見交換なども取り入れながら理解を深めていきます。	教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦 教職課程センター特任講師 安倍 良博・狩野 陽子	8月16日（火） 13：00～15：30 受付12：30～13：00 受講料無料	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	30名程度
(R04-04) 特別支援教育におけるICTの利活用	GIGAスクール構想の実現は、新型コロナウイルスの影響を受けて更に加速し、すべての学校において一人一台端末の時代が到来しました。元来、特別支援教育とICTは親和性の高いものでしたが、通信環境も整備された今、活用範囲は更に拡大してきました。本講座では、「一斉授業での活用」及び「個別支援での活用」といった活用場面と、「学習教材」及び「支援ツール」といった活用方法を整理した上で、様々な学習場面でICTを活用できるアイデアを紹介していきます。タブレットPCを使用しての演習も実施できればと考えています。（タブレットPC（iPad）は大学が用意します。）	教育部門講師 佐々木 健太郎	8月17日（水） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料	小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	30名
(R04-05) 国語科における単元の評価規準の設定—「主体的に取り組む態度」の評価規準を授業ではどうデザインするか	単元の評価規準における「主体的に取り組む態度」は授業においてどう展開されるのか。指導案上では「知識・技能」「思考・判断・表現」は「～している」と表現されるのに、「主体的に取り組む態度」では「～しようとしている」に表現が変わります。これら相違を授業ではどう具体化され、学習者および指導者に可視化されるのかを教科書教材に注視しつつ、学習指導要領を念頭に置いて考えてみることにします。例えば、「学習課題」設定なども一方法かもしれませんが。しかし、今回は学習者が現行教科書に頻出する「語り」「語り手」「視点」「空白」などに注目し、それらを理解し、自由に操作することによって、もしかしたら「主体的に取り組む態度」の目指すところに近づくのではないのかと考えます。異なる校種の皆さんが、相互に話し合うことによって内容が共有できることを期待します。そして、「講座に参加してよかった」「明日からの授業に生かしてみよう」など、参加して無駄にはならない貴重な体験であったと言ってもらえる内容の講座にします。（現在使用している教科書を持参ください。）	教育部門特任教授 田村 嘉勝	8月18日（木） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料	小学校教員 中学校（国語科）教員 高等学校（国語科）教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）	20名

<p>(R04-06) 教育の名言から探るこれからの教師に求められる資質と能力</p>	<p>今も伝わる教育に関する名言は、その時代の教育の有り様、求められる学校像・教師像を反映した言葉であると言えます。 現在の教育現場が多様化・複雑化する中で、あるいはコロナ禍の中で、学校はどうあればよいのか、これからの教師に求められる資質と能力とは何なのかを教育の名言から考え、各自治体が提示する「教員育成指標」とも関連させながら探っていきたいと考えます（グループでの意見交換も予定しています）。</p>	<p>教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦</p>	<p>8月19日（金） 13：00～15：30 受付12：30～13：00 受講料無料</p>	<p>小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）</p>	<p>30名程度</p>
<p>(R04-07) 「学び続ける教師」が創る令和の時代の学校・学級・授業</p>	<p>教員には「学び続ける教師」として、そしてチーム学校の一員として、これからの時代に求められる資質・能力を児童生徒に確かに育む学校、児童生徒が日々学びがいを感じる学校を校長のリーダーシップの下に保護者や地域住民と共に創っていくことが求められます。 本講座では、一人一人の持ち味が発揮される学級経営、配慮や支援を必要とする児童生徒とのかかわりや保護者との連携、学びの質を高める「主体的・対話的で深い学び」による授業の活性化、家庭や地域と連携した教育活動の展開などについて、事例を取り上げながら考えていきます。（グループに分かれての意見交換も取り入れる予定です。）</p>	<p>教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦 尚絅学院大学非常勤講師 新山 祐子</p>	<p>8月22日（月） 13：00～15：30 受付12：30～13：00 受講料無料</p>	<p>小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）</p>	<p>30名程度</p>
<p>(R04-08) 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくり</p>	<p>「学びの質」を一層高めることが期待される「主体的・対話的で深い学び」を展開する上で、問題解決的な学習過程を基本として学習内容（教材と資料）、学習形態、学習活動、学習評価、学習空間などの面からの授業改善が求められています。実際にそうした授業をどのように構想していくかについて、地域素材の教材化、学習課題の設定の在り方、個と集団のかかわりを重視した学習活動などを視点に、実践事例を基に具体的な理解を深めていきます。</p>	<p>教職課程部門特任教授 佐藤 佳彦 教職課程センター特任講師 安倍 良博・狩野 陽子</p>	<p>8月23日（火） 13：00～15：30 受付12：30～13：00 受講料無料</p>	<p>小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）</p>	<p>30名程度</p>
<p>(R04-09) イメージ療法に挑戦（箱庭、描画）（風景構成法）</p>	<p>イメージ療法はことばを使わず、自分の無意識を活性化することで、意識レベルで自分でもわからない悩みや葛藤が減少していく療法です。不登校や引きこもりの児童生徒のこころの葛藤や不安をことばで表現できることは難しいです。しかし、イメージ（箱庭、描画）を用いれば、そのイメージに悩みや葛藤を表現していることがあります。そのイメージ療法を体験してみましょう。（クレヨン、色鉛筆、黒マジックをご持参ください。）</p>	<p>心理部門教授 三好 敏之</p>	<p>8月26日（金） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料</p>	<p>小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）</p>	<p>30名</p>
<p>(R04-10) からだとこころのつながり</p>	<p>からだの不調（からだのだるい、重い、痛い等）があれば、こころの不適応（やる気がでない、疲れる等）に現れます。今回はからだの緊張を自分できづいて、その緊張を弛めたり、動かしたりしてからだの軸を通してこころがリラックスして、安心するこころの使い方を勉強してみましょう。（からだのワークをしますので、ズボンでご参加ください。）</p>	<p>心理部門教授 三好 敏之</p>	<p>8月30日（火） 13：00～15：00 受付12：30～13：00 受講料無料</p>	<p>小学校教員 中学校教員 高等学校教員 特別支援学校教員 （教職課程履修者）</p>	<p>30名</p>